

コロナ禍の世界

25

横浜市駐在員リポート

横浜企業の海外進出支援に向け、横浜市は11月に開催された上海の中国国際輸入博覧会に出展した。約100万人を超える入場者全員にPCR検査陰性証明が必要で、市上海事務所の全員が病院で検査を受けた。事前予約は不要で、受け

は、市外へ出るのに証明が必要となったこともあった。入国時にはPCR検査に加え、血清IgM抗体検査陰性証明が必要となる。陰性証明をはじめとして、携帯電話による行動記録や入国時の2週間完全隔離など、中国は感染阻止を徹底している。生命、暮らしを守る目的は日本と同じだが、国の状況、課題、文化が異なるので当然、日本とは違った対策になる。

今年是中国が世界で一番長く、新型コロナウイルスに向き合ってきた。数多の経験、犠牲、忍耐を重ね、今や大勢で食事ができるほど日常が戻ってきている。

今後、横浜市は友好都市の上海市と、日中の医師対談をオンライン配信する。両国の知見も共有して、良き新年への一歩としたい。

(横浜市上海事務所長・川島 とも子)

予防徹底で日常回復

付け、支払い、検査は全て風通しの良い屋外で行われた。受け付けから支払いまで携帯電話一つで済ませられ、ペンや現金を持つ必要もなく、便利で安全。検査費は1回1200円(約1900円)だった。テント内の椅子に座ると鼻と口の奥の粘膜を拭かれるが、技師も手慣れていて違和感を覚

上海



PCR検査を受ける横浜市上海事務所の職員＝11月2日、上海市の天山中医医院